

2013年3月崛圍山登山

北清 康二

3月に入り、明るい柔らかな日差しに暖かさが少しづつ戻ってきました。半月ほど前まで、手袋をしないと指先が痛くなるほどの寒さだったのが嘘だったかのようです。

体が凍えるほど太原の寒さも、暖気(ヌアンチ)と呼ばれる室内暖房機のおかげで快適に過ごすことができました。ところが、季節の変わり目、この暖気が曲者です。室内を暖房しすぎるという逆転現象を引き起こします。さらに、寒さが戻ったりで、気温の変化について行けず3週目にとうとう風邪を引いてしまいました。

まだ風邪の尾を引いている感はありますが、運動に出かけることにしました。行き先は、太原市の西北24kmに位置する崛圍山(ジュエウェイ山)です。23日の朝9時、同年輩の日本人留学生を誘って宿舎をスタートしました。行き先は呼延村です。公共バスカードを使うので、片道1元(約15円)です。



▲インターネット (Google) で経路を検索

下元で乗り換えます。バス車内は若い男女、子供連れ家族、年寄り夫婦で溢れ身動きもできません。女の子が席を譲ってくれました。私たちの身なりから同様に山登りに行くと見たようです。どこの人ですかと聞いてきます。話をしている気づきましたが連れの案内と見られていたようです。

11時半すぎ、終点手前の「呼延村招呼駅」に到着しました。結構な賑わいです、降り立った大部分が山に向かって歩き出します。村道を山に向かいながら、500mlの水(1~1.5元)とDVD20枚程のパン(1元)を昼食用に入手します。



崛圍山の山頂に立つ煉瓦作りの仏塔が街中から見えます。この時期の郊外の村は快適ではありません。山から吹き降ろす1陣の風が、道路の細かい砂埃を巻き上げ、高さ5m、長さ10m程の砂埃の塊を作り吹き寄せてきます。中に入ると視界は1mもありません。しかも50～60mおきぐらいに襲って来るのです。

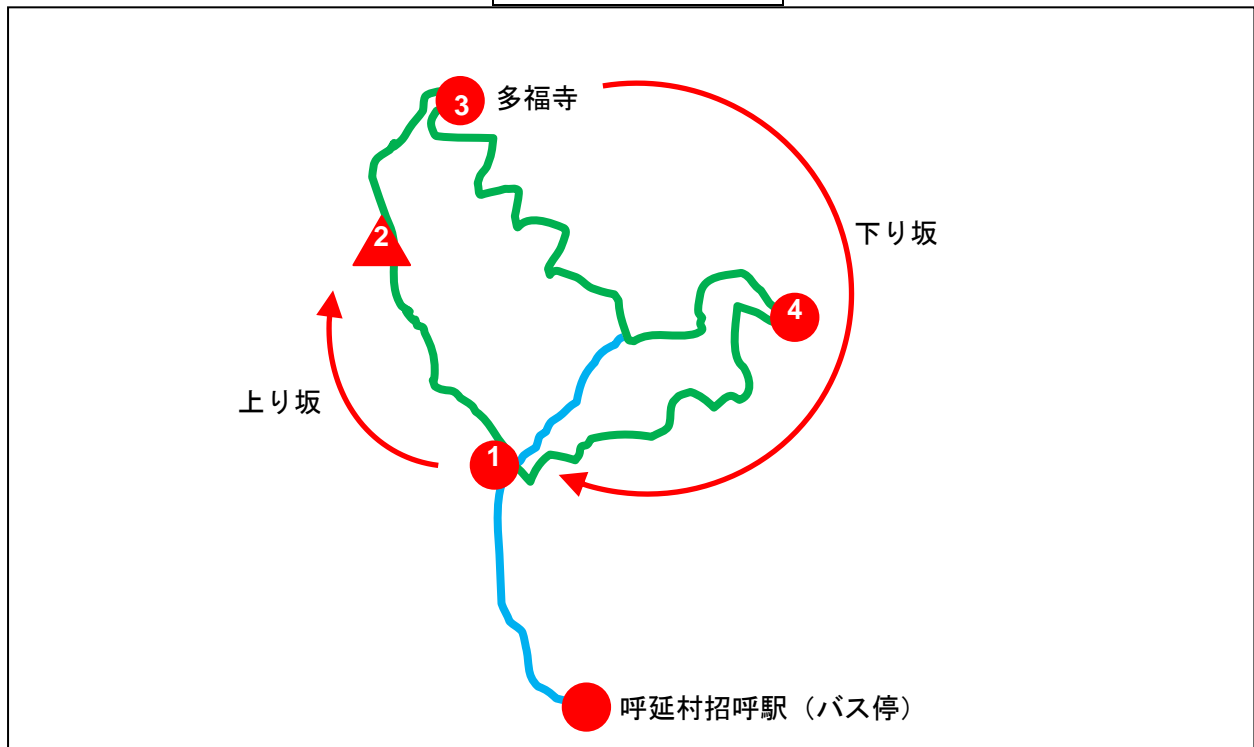


太原の山は粘土質の堆積岩で出来ています。その上に、レゴで積んだように峻険です。乾燥していると脆く、湿ると粘土のようになりとても危険です。そこで登山道は海拔1345mの山頂まで尾根伝いに石段が積まれています。山頂の塔の奥の尾根に多福寺があり、そこから写真の山の右肩の尾根の下に自動車道路が作られています。



山頂に向かう石段から、右手の自動車を眺めてみます。わかりやすいように黄色くマークしてあります。

峴園山登山ルート



1-2: 山頂まで休み休み 1 時間 (若い人なら 40 分程でしょう)、2-3: 山頂から多福寺までは 800m10 分、3-4-1: 自動車道は 5km あります (マウンテンバイクの格好のコースのようで、当日も数多くの愛好者が上り下りするのを見かけました。) が、下り坂なのであつというまに下りきってしまい本日の登山を終了しました。

太原市内を歩いた範囲ですが、ここ以外にも素敵なレジャースポットが沢山あります。

ただ、同様の日本のレジャースポットで取り入れられている手法を参考にしてもらえれば、より良くなるだろうな、難しいかな、などと思いをめぐらせながら、バスで帰路につきました。